

交流拠点・生活基盤である離島港湾の整備促進

本県は多くの離島を有しており、地域経済の活性化や住民生活の安定のためには、人流、物流の拠点となる港湾機能の確保が重要である。

交流拠点・生活基盤である離島港湾の整備促進

厳原港(対馬市)

厳原港、比田勝港は
国際交流の拠点港

対馬～釜山航路は
我が国唯一の離島の
国際定期旅客航路

- 厳原～釜山間: 週9～10便
- 比田勝～釜山間: 週11～14便

韓国人来島者数
平成20年は77千人



平成24年は150千人

厳原地区

厳原港離島ターミナル機能の再編

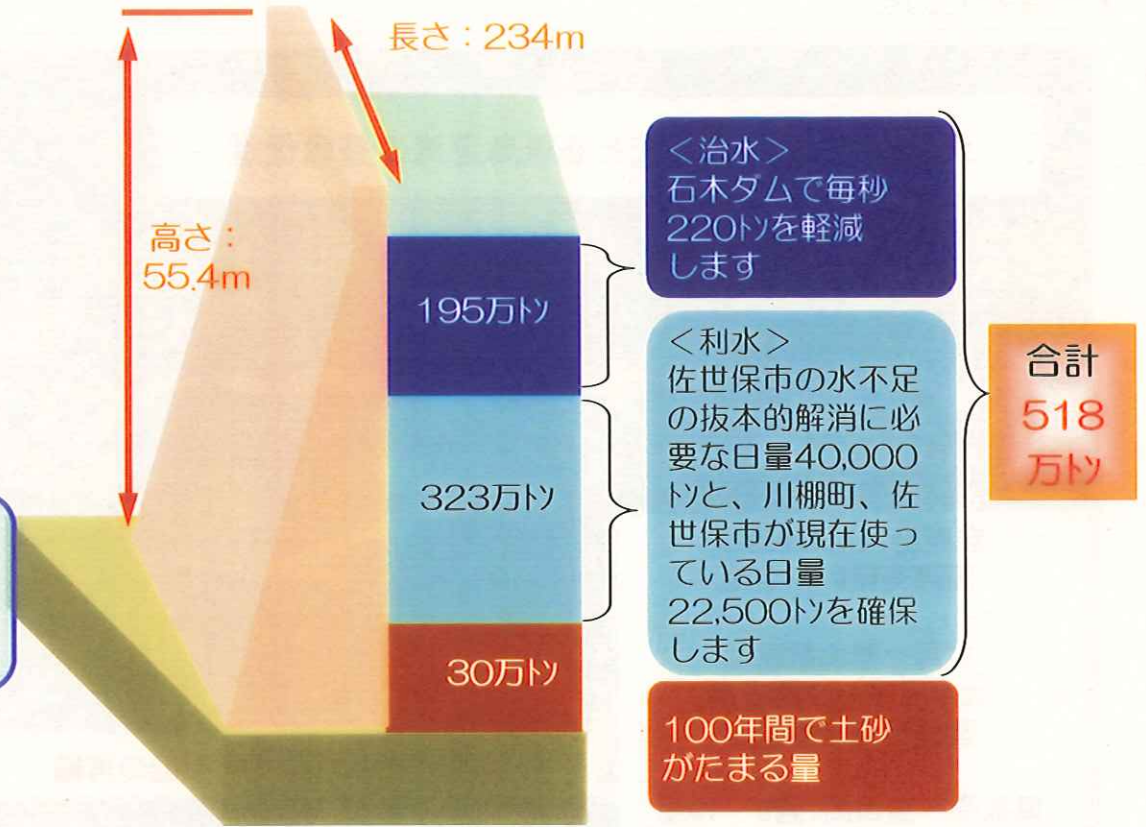
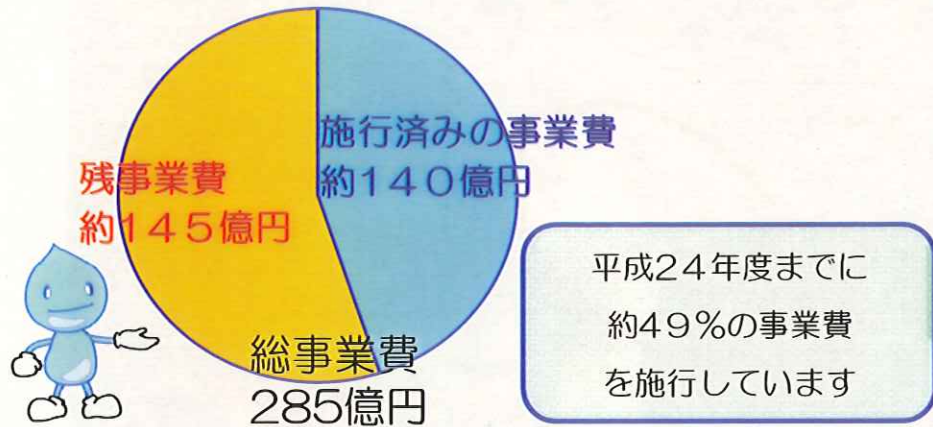


(韓国人観光客の増加で
混雑する既設ターミナル)

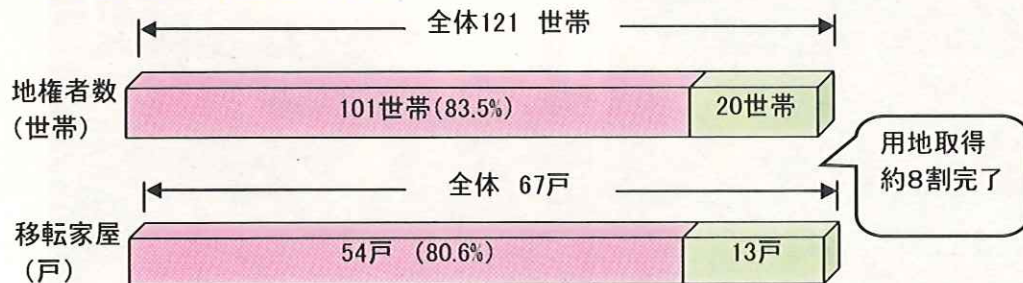
石木ダムの概要

○事業費

総事業費：285億円
 負担額：治水約185億円(65.0%)
 利水約100億円(35.0%)
 平成25年度の事業費：約8.4億円



○用地の進捗状況



平成16年度に計画を縮小し、
 取水量を 6万ト から 4万ト、
 事業費を 297億円 から 285億円
 に見直しています。

洪水から住民の生活を守ります。

川棚町では、昭和31年8月洪水を契機として、治水対策を進めてきましたが、平成2年にも384戸の浸水被害が発生しています。

○川棚町における過去の主な洪水被害状況

満水の状態で行れる川棚川 (H2.7.2 岩立から撮影)



満水の状態で行れる川棚川 (H2.7.2撮影)



背後地が宅地化した現在の状況

- 昭和23年 9月11日
 床上浸水 800戸 床下浸水 1,200戸
 計 2,000戸
- 昭和31年 8月27日
 床上浸水 251戸 床下浸水 550戸
 計 801戸
- 昭和42年 7月 9日
 床上浸水 15戸 床下浸水 113戸
 計 128戸
- 平成 2年 7月 2日
 床上浸水 97戸 床下浸水 287戸
 計 384戸



川棚町市街地の状況 (H2.7.2撮影)

佐世保市の水不足を抜本的に解消します。

平成6年度から7年度にかけて、2日間で最大43時間の断水及び264日の給水制限をはじめ、毎年のように渇水対策を強いられてきました。

○佐世保市における過去の主な渇水状況

時間給水制限

○平成6年8月1日～平成7年4月26日:

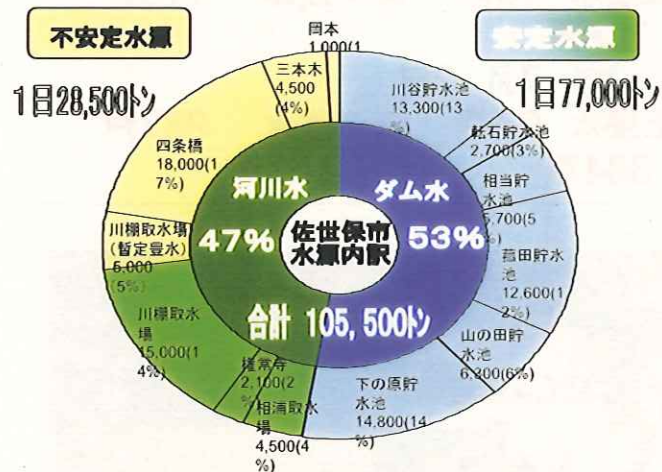
日本一厳しい給水制限264日間

減圧給水制限

○平成17年7月2日～9日:8日間

○平成19年11月23日～

平成20年4月30日:160日間

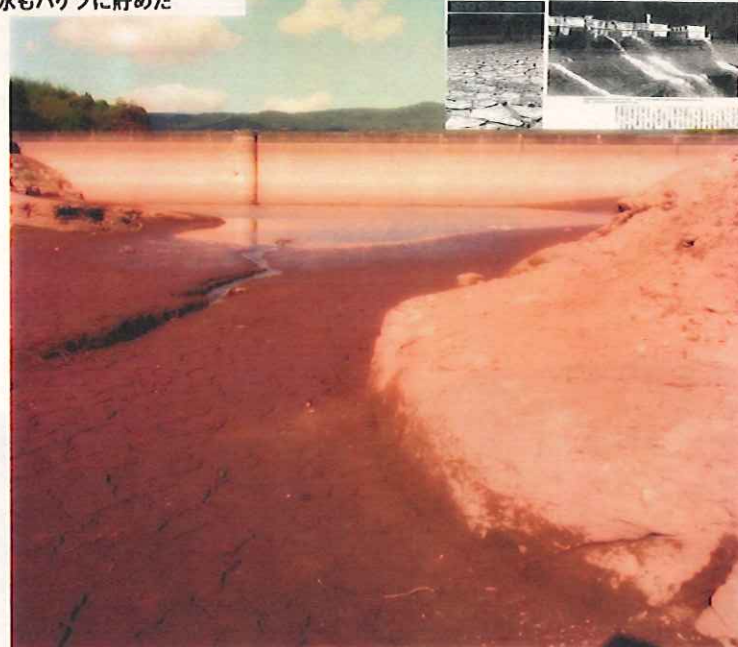


水源の半分を河川水にたよっている。

雨が降らない日が続くと、
すぐ渇水になりやすい状況にある。



給水制限により医療用水もバケツに貯めた



佐世保市転石ダムの渇水状況(平成6年)